

## 研究基調

### I 研究主題

**研究主題** 教科の視点を明確にした合わせた指導のあり方  
～学習評価を工夫した授業実践を通して～

### II 研究主題設定の理由

#### 1. 本研究1年目の取り組みについて

新学習指導要領の主旨を踏まえ、昨年度より「教科の視点を明らかにした合わせた指導のあり方」をテーマに研究を推進している。1年目は、特別支援学校校長会主催の「専門性向上研修」と連携し、鹿児島大学より肥後祥治教授をお迎えし、指導講話と本主題に関わる公開授業研究を合わせた研修を2回計画・実施した。また、小・中・高の3学部による分科会では指導主事の指導助言を受け研究を深めた。

#### 2. 研究主題について

##### (1) 教科の視点を明確にする意義

新学習指導要領では、各教科等を合わせた指導について次のように書かれている。「(前略)各教科等を合わせて指導を行う際には、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上で、(中略)、効果的に実施していくことができるように(中略)各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にした指導計画を立てることが重要となる。」

##### (特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部))

各教科等を合わせた指導では、児童生徒が、生活に密着した実際の体験的な学習を行うことができる。夢中になって取り組める指導の形態であるという点から本校の教育活動としても大変有効であると考えた。各教科等を合わせた指導の中にある各教科の指導目標や指導内容や評価の整理を行い、各教科等で育成を目指す資質・能力を明確にした上、年間指導計画の内容を見つめ直し、今ある計画をさらに充実させ、小学部から高等部まで一貫性、系統性のある教育課程を編成することで、これまで以上に児童生徒の育成を目指す資質・能力を育むことが可能になると考えた。

##### (2) 学習評価を工夫する授業実践

新学習指導要領に示されている教科の目標(段階の目標)や内容に沿って、単元目標や主眼、内容の設定をすることで、学習評価の観点詳しく設定できるのではないかと考えた。さらに、「できなかった」の△の評価でとどまるのではなく、できなかったことに対して単元目標や主眼に照らして記述で評価することによって、必要な手立てや主眼や内容設定等の課題が明らかになり、次の授業につながっていくと考えた。

### 3. 研究方法について

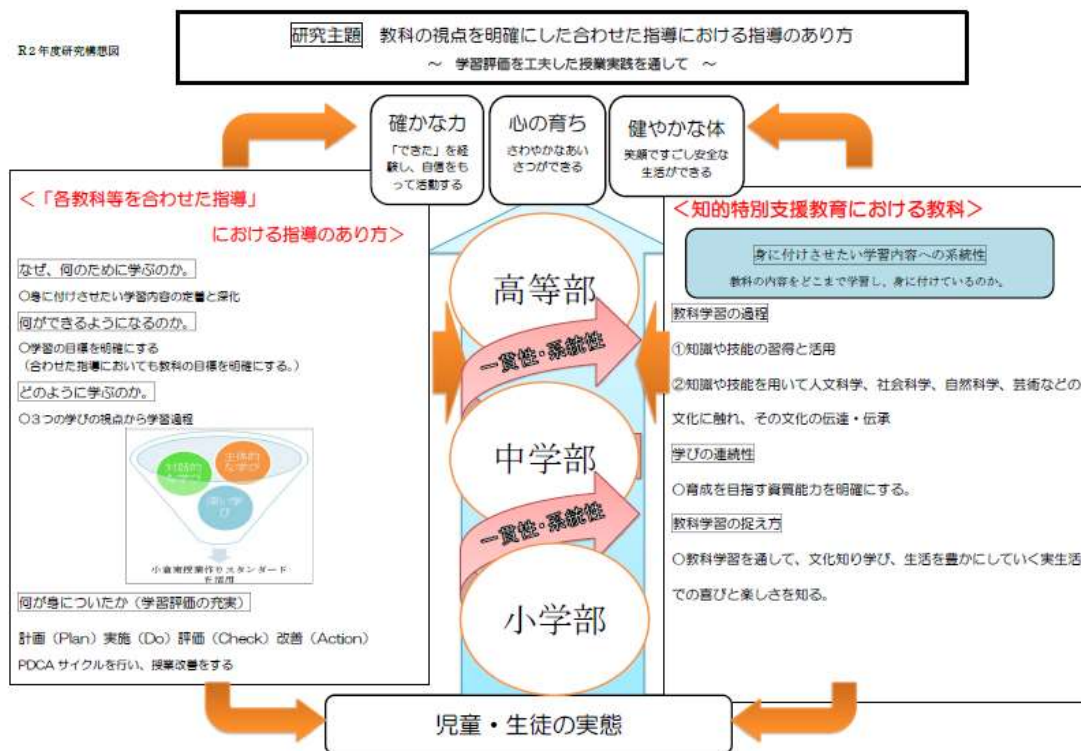
当初、専門性向上研修として、特別支援教育課の指導主事や山口大学松田信夫教授による授業実践や協議会における指導助言を通して研究を進める予定であったが、新型コロナウイルス感染症予防のため中止とした。校内で取り組める授業実践については、授業の行い方を工夫しながら行うこととした。

- ①本年度の研究についての共通理解を図るための研修を行う。
- ②合わせた指導の中に教科の視点が明確になるように授業づくりし指導案に明記する。
- ③評価の観点を明確にした授業研究を行い、評価の方法の検証を行い、PDCA サイクルの構築を図る。
- ④10月に山口大学の松田教授より、各教科等を合わせた指導についての講話を聴く。

### 4. 研究構想図について

学校教育目標である①明るい子(「できた」を経験し、自信をもって活動する)「確かな力」②思いやりのある子(さわやかなあいさつができる)「心の育ち」③たくましい子(笑顔で過ごし、安全な生活ができる)「健やかな体」に実現に向けて、授業実践から、各教科等を合わせた指導のあり方を探り、各教科等を合わせた指導における教科を整理することにした。

授業実践では、「何のために学ぶのか」「何ができるようになったか」「どのように学ぶのか」「どんな力が身についたか」を計画(Plan)実施(Do)評価(Check)改善(Action)のPDCAサイクルで、授業改善を行う。



5. 研究計画について

<本年度の年間計画>

1年次	2年次	3年次
<p>○スタンダード活用と検証</p> <p>○年間指導計画の整理（表作成） （各教科等の内容の偏りを確認）↓</p> <p>○生活単元学習での授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の視点を明確にした授業づくり、授業改善（各教科等のどんな力を付けたいか）</li> <li>・実態把握と評価</li> </ul>	<p>○スタンダードの充実</p> <p>○年間指導計画の改訂 （各教科等の内容の偏りをなくし広がりをもたせる） ↓</p> <p>○生活単元学習での授業研究</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の視点を明確にした授業づくり、授業改善（各教科等のどんな力を付けたいか）</li> <li>・実態把握と評価</li> </ul>	<p>○スタンダードの活用</p> <p>○改訂した年間指導計画に基づく単元指導計画と実践 ↓</p> <p>○生活単元学習の授業研究（各教科等内容の深まり）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等の視点を明確にした授業実践（各教科等のどんな力がついたか）</li> <li>・実態把握と評価</li> </ul>

<本年度の年間計画>

- 5・6月 研究推進委員会、主題研究係会  
 主題研究に関する職員研修 (WEB研修)「各教科等を合わせた指導について」  
 主題研究に関する職員研修「本年度の主題研究について」
- 7月 授業実践（中止）
- 9月 高等部授業研究・研究協議会
- 10月 山口大学 松田信夫教授 Zoom 研修  
 「教科の視点を明確にした合わせた指導の在り方」  
 ～高等部での作業学習におけるキャリア教育～
- 11月 中学部授業研究・研究協議会  
 （北九州市立教育センター共同研究（kitaQ せんせいチャンネル動画配信））
- 12月 小学部授業研究・研究協議会
- 1月 研究のまとめ、次年度への整理  
  - ・研究推進委員会を開催し、本年度の成果と課題を明らかにする
  - ・次年度に向けての取組の方向性等の整理を行う
- 3月 主題研究に関する職員研修について  
 「本年度のまとめおよび次年度の方向性について」

## 6. 研究の実際について

本研究では、合わせた指導の各教科等の視点を明確にした年間指導計画の整理を行い、それに基づく授業づくり、授業改善を行う。

本年度は、本研究の2年次であり、昨年度の課題であった①学習評価の観点の明確化②児童生徒の実態に基づく教科内容の整理の2点に着目し、研究を進めた。

### ①学習評価の観点の明確化

指導案に明記されている個人目標、評価の観点を学習指導要領の各教科等の目標に照らして、授業を参観した教師がだれでも評価できるように設定する。さらに学習評価の「できない」の△に止めず、どうすればよかったのかなどの評価の観点の再考や新たな手立ての記述ができるようにする。

### ②児童生徒の実態に基づく教科内容の整理

各教科等の内容の整理については、生活単元学習だけではなく、遊びの指導や作業学習、日常生活の指導など各教科等を合わせた指導の指導内容表を整理する。

## 研究のまとめ

新学習指導要領の主旨を踏まえ3年次研究の2年次として「教科の視点を明らかにした合わせた指導のあり方」をテーマに研究を推進した。本年度計画していた特別支援学校校長会主催の「専門性向上研修」と連携して研究を進めることが難しく、また特別支援教育課の指導主事からの指導助言を受けることができなかった。しかし、校内研修に切り替え、各学部での合わせた指導の授業実践・協議会を行うことができた。他学部への授業見学等は行えなかったものの、高等部の授業実践の様子は全職員がDVDを視聴し、山口大学松田教授からの指導助言、講話につながるものとなった。

研究推進にあたっては、以下の流れで進めた。

- ①本年度の主題研究についての共通理解を図るための校内研修の実施
- ②各学部合わせた指導における指導内容表の作成
- ③10月高等部授業実践・協議会（作業学習）
  - 11月中学部授業実践・協議会（生活単元学習）
  - 12月小学部授業実践・協議会（生活単元学習）
- ④10月高等部授業実践を受け、山口大学松田教授によるZoom研修
- ⑤主題研究推進委員を中心とした、協議会のまとめとアンケートを取りまとめ

### (1) 本研究の成果

本研究を通して、成果と考えられる取組を次の2つにまとめた。

◎成果1 生活単元学習だけではなく日常生活の指導、遊びの指導、作業学習の合わせた指導の指導内容表をまとめることができた。

昨年度、生活単元学習の指導内容表を作成したことで、全学部教科に偏りがあることが分かった。全体的な傾向としては、生活「人との関わり」社会「社会参加と決まり」国語「聞くこと・話すこと」音楽「表現・鑑賞」図画工作「表現・鑑賞」美術「表現」職業家庭「衣食住の生活」と「職業生活」と「家族・家庭生活」が単元構成の多くの割合を占めており、算数、数学、理科、外国語、情報を扱う回数が少ないことが分かった。今年度、感染症予防のため、活動に制限はあったが、新たに起こした単元などもあり、教科の偏りをなくすことができている。また、他の合わせた指導についても各単元、作業学習に含まれる教科の内容を整理し「指導内容」をまとめた。

◎成果2 教科や評価の視点についての意識が高まっている。

以前の生活単元学習は、活動や行事が中心となり「楽しかったね」「がんばったね」で終わることも多かったが、教科を示すことで、その活動でどんな力が付くのかについての教師の意識が高まってきていると捉えている。また、新たに単元構成をする場合、学習指導要領に示されている教科の内容や目標を達成するためには、どんな単元を組んで学習をすれば、児童生徒の学ぶ意欲を高め、付けたい力を付けられるだろうかと、教科を意識するようになった。これをさらに形として表せるように、マトリックスが有効であると考えている。

## (2) 本研究の課題

### ▲課題1 系統性をもたせた指導

系統性をもたせるとは、各学部学年が上がるごとに、同じ学習内容ではなく、一步一步前に進んだ内容に取り組んで行くということである。本校では、小学部・中学部・高等部の3学部が学んでいく中で、学習指導要領の改訂を基に12年間を見据え、系統性をもたせた授業実践が求められる。そのために、各教科の内容を十分に学習できる教育課程を整えることが必要である。また、新学習指導要領に対応した学びの履歴の見える化や系統的な指導の構築が必要であると考え。これからの取り組みとしては、成果と課題を整理し、次の指導、次の学年の指導に生かしていく必要があると考える。

### ▲課題2 地域に根差した指導の実践

学校教育で身に付けたことを実際の生活場面、将来の生活に生かしていくためには、学校教育だけにとどまらず、学校と地域とのつながりを通じた授業実践が必要である。昨年度はSDGsとの関連をもつ取り組みとして、小倉南ブランドの広告、エコリーダー活動、出張清掃など地域とのつながりを通じた体験的な学習を行った。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域とのつながりを通じた体験的な取り組みに制限があった。その中で、地域に喜ばれる清掃活動や地球環境を良くするためのリサイクル活動、身の回りでお世話になっている人に年賀状を出す活動等、地域と関わりの深い取り組みを実践した。来年度もコロナ禍のため、活動が制限されると予測されるが、児童生徒が地域の課題を知り、その解決に向けて考え合い、自らの行動化につなげられるような授業作りが大切であると考え。

## (3) 今後の展望

昨年度、今年度と「各教科等合わせた指導における指導内容表」を作成しているが、今年度山口大学の松田教授の講話を受け、マトリックスの活用についてのご指導を頂いた。また、その講話のアンケートにおいても、マトリックスの作成に意欲的な意見が多く出された。来年度は、教育課程を整え、学びの履歴ともなるマトリックスを作成し、3ヶ年のまとめとする。